



『ハツ場ダムと倉瀨ダム』
緑風出版 一八〇〇円＋税

相川俊英 著

川辺川ダム

本欄九月号に引き続き、治水やダムについての本を読むことになるとは思わなかった。それにその時の書評と出だしも同じだ。

七月の記録的豪雨で氾濫した熊本県の球磨川の治水対策をめぐり、同県の蒲島郁夫知事は、最大支流である川辺川のダム……。



ここまでは同じ。

グラビア	地域を支える人 山口祐佳さん・佐賀県鹿島市	1
発掘！地域の希望のタネ	三重県御浜町 〈不知火〉	5
給食のじかん	〈鯛のカラフル野菜ソース〉 愛媛県宇和島市 萩原祥司	6
書評	相川俊英 著『ハツ場ダムと倉瀨ダム』 菅原敏夫	8
焦点	“女性のいない民主主義” という課題 元橋利恵	10

特集 生物多様性を守る

生物多様性の現状と身近な生物を保全するこれからの活動	出島誠一	16
生物多様性地域戦略と自治体——次期国家戦略とローカルな実践	香坂 玲	25
地方行政における外来種対策	中井克樹	34
ビオトープの行方——生物保全と環境教育の現場から	山田辰美	41
ドブ川再生から潟の資源循環がってんプロジェクトへ	相楽 治	50
消えゆく「メダカの学校」を守れるか——藤沢市	菊池久登	55
コウノトリと共に生きる——豊岡市	宮垣 均	60
連載 『月刊自治研』を読む〈第五季〉⑩自治の生活綴り方教室	篠田 徹	65
各県自治研活動レポート 「二〇二〇地方自治講演会」の開催 島根県本部	大崎康弘	72
2020年総索引		74
自治研センターの機関誌案内		79
次号予告・編集部から		80

・七月五日「ダムによらない治水対策を極限まで追求する」と考えの変わらなことも強調。
・十一月九日「ダム建設を認める考え」を県議会全員協議会で表明。

球磨川洪水は被害も大きく、失われた命も多く、痛ましい。しかし、川辺川ダムは環境か人命かが争点なのではない。本当に人が死ななくてすむ治水対策はなんなのかの模索である。
人びとの声、川の声

本書の著者相川俊英は本欄に『清流に殉じた漁協組合長』（二八年、コモنز）で登場した。その時と全く同じ手法で、声を聞き、言葉を拾い、会話で川の事件を描き出す。
結果が正反対の二つのダム。ダムを中止し、ダムによらない対策を群馬県が追求する倉瀨ダム。一方今年運用が開始され、首都圏の洪水を防いだというようなフェイクニュースでしか祝福されないハ

ツン場ダム。今は湖底の集落で、かつて自治研会合が開かれたことを思い出す。
著者は第一章「ダムをとめた住民と県知事」で、長野の脱ダム宣言の陰で、むしろめだたずダムの見直しが進む経過を描き出す。倉瀨ダム中止の成功とハツ場ダム完工を比較しながら、得た結論は、地域課題に密接した住民運動と予想を超える氾濫に備える新しい流域治水への転換、民主党政権の脱ダム失敗のトラウマからの脱却だ。
脱ダムの政治

もう一度九月号。大熊孝は球磨川水害のあとすぐに、犠牲者の冥福を祈りながら、川辺川ダムが水害を防げないこと、環境に優しいとされる「穴あきダム」の効果のなさを指摘している。
球磨川の流域の住民も必ず合理的な選択に行きつくだろう。流域自治と流域治水に基づいた対策に行きつくだろう。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員